

東京言語研究所 集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学を研究されている方や言語学に興味をお持ちの方を対象に
＜理論言語学講座＞をはじめとして様々な講座を開講しております。
＜集中講義＞は、多様な研究の一領域を集中的に学べる講座です。ぜひご参加ください。

＜演題＞ ドナルド・デイヴィッドソンの言語哲学

—真理条件意味論とコミュニケーションのアナーキズム—

＜講師＞ 野矢 茂樹（哲学者／立正大学教授）

＜日時＞ 3月14日(土)・15日(日)

10:30～16:30

＜講義形式＞ 対面講義(先着 10 名)と

ZOOM によるオンライン講義併用

＜対面会場＞ 新宿区西新宿 3-9-2 イマス西新宿第一ビル 8 階

＜受講料＞ 一般 12,000 円(税込)

2025 年度理論言語学講座受講生 9,000 円(税込)

※事前振込制

＜申込み＞ ホームページ「[申込みフォーム](#)」

または QR コードからお申込ください



※申込み受付期間：

2 月 6 日(金)10:00AM～3 月 9 日(月)10:00AM

講師紹介：

哲学者。北海道大学文学部助教授、東京大学大学院総合文化研究科教授、立正大学文学部教授を歴任。『論理学』、『哲学・航海日誌』、『論理哲学論考を読む』、『語りえぬものを語る』、『心という難問』、『哲学探究という戦い』、『言語哲学がはじまる』などの著作がある。現在は『新版 哲学の謎』と『自由をめぐる哲学的探究』という著作を準備中。(今年中に出版。)

講義概要

真理条件意味論を中心に、言語哲学の入門的講義を行ないます。まず、前期ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』の意味論を、フレーゲの意味論と対比しつつ概観し、ついでドナルド・デイヴィドソンの真理条件意味論の枠組を見ます。そしてそれに基づいたデイヴィドソンの根元的解釈の議論を説明し、その行きついた先として、「言語は存在しない」という、私が「コミュニケーションのアナーキズム」と呼ぶ議論を見ます。この驚くべき主張には説得力もあり、また重要な洞察が含まれていると思うのですが、しかし、やはり私には言語に対する一面的な捉え方に思われます。そこで後期ウィトゲンシュタインの「言語ゲーム」という考え方に依拠して、デイヴィドソンの議論の「毒」に対して可能なかぎり解毒を試みてみたいと考えています。

<タイムスケジュール>（予定）※時間配分は講義の進行によって前後する場合があります。

3月14日（土）

10:30 講義—1
12:00 講義—1 終了 休憩
13:15 講義—2
14:45 講義—2 終了 休憩
15:00 講義—3
16:30 講義—3 終了

3月15日（日）

10:30 講義—1
12:00 講義—1 終了 休憩
13:15 講義—2
14:45 講義—2 終了 休憩
15:00 講義—3
16:30 講義—3 終了

○ 問合せ先

一般財団法人ラボ国際交流センター 東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-9-2 イマス西新宿第一ビル 8 階

TEL:03-6233-0631 FAX:03-6233-0633

E-mail:tokyogengo@labo-global.co.jp 公式サイト:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>